

## 助成事業に関するフォローアップ調査結果(平成 30 年度)

### I フォローアップ調査の目的

地球環境基金の助成を受けた活動について、その後の活動状況及び波及効果、組織の発展等について調査し、他団体の参考に供するとともに、助成事業の一層の充実を図ることを目的としてアンケートによる調査を実施した。

アンケート調査は、平成 26 年度から平成 28 年度までの3年間継続して助成を受けた 46 団体(ひろげる助成:38 団体、復興支援助成:7 団体、プラットフォーム助成:1 団体)に対し実施し、全ての団体から調査票を回収した。(表1)

表1 調査団体数 及び 回収団体数

調査団体数	回収団体数	回収率
46	46	100%

### II 助成を受けて行った活動について

#### 1) 活動の継続実施の有無

「地球環境基金の助成を受けて行った活動は現在も維持していますか」という質問に対し、「継続している」と回答した団体は 46 団体中 38 団体(82.6%)であった。(表2)

継続している団体の割合は、昨年(平成 29 年度)の調査結果(84.1%)と同水準であった。

表2 活動の継続実施の有無

区 分	対象団体数 46 件	
	件 数	構成比
a. 継続している	38	82.6%
b. 継続していない	8	17.4%

また、「継続していない」と回答した8団体の理由は以下のとおりであった。

- ・活動の目的を達成した 4 件
- ・団体の活動を休止または団体を解散した 1 件
- ・運営体制に問題があり、実施できなかった 1 件
- ・その他 2 件  
(助成活動を経て他団体や自治体との協働プロジェクトが始まったため)  
(事業の運営を他の組織へ引き継いだため)

#### 2) 活動の志向について

活動を継続している 38 団体を対象とした、「地球環境基金の助成を受けて行った活動について、

貴団体はどちらを志向していますか」という質問への回答は次ページのとおりであった。(表3)

表3 助成活動の志向について

回 答 項 目	対象団体数 38 件	
	件 数	構成比
a. 現在の活動規模を拡大する	20	52.6%
b. 現在の活動規模を維持する	18	47.4%

「現在の活動規模を拡大する」と、「現在の活動規模を維持する」と回答した団体数は、それぞれほぼ半数だった。

### 3) 活動の継続実施の規模について

- ① 活動を継続している 38 団体を対象とした、「活動の規模は、どのように変化しましたか」という質問への回答は以下のとおりであった。(表4)

また、その回答結果について、上記2)による現在の活動規模に対する志向(拡大または維持)別の内訳を調べた。

表4 活動の継続実施の規模

回 答 項 目	対象団体数 38 件			
	件 数	構成比		
			うち「拡大」志向	うち「維持」志向
a. 縮小した	6	15.8%	0	6
b. 変わらない	15	39.5%	6	9
c. 拡大した	17	44.7%	14	3
			20	18

「変わらない」または「拡大した」と回答した団体は 38 件中 32 件あり、計 84.2%の団体が助成を受けた期間と同程度以上の活動規模を維持している。この割合は、昨年調査結果(78.4%)をやや上回った。

- ② 「拡大した」と回答した団体の具体的な活動の事例は、以下のとおりであった。(抜粋)

- ・外務省日本 NGO 連携無償資金協力案件として活動
- ・双葉郡檜葉町・富岡町・南相馬市などでのコットン栽培の開始
- ・百万都市の公的機関が注目し、活動を展開したいと申し出があった
- ・ジュサラ椰子アグロフォレストリー(AF)モデル園場栽培面積の拡大
- ・住民アセス業務の受任

- ・公立保育園など様々な場所で活動し、内容が高まっている
- ・綿畑の拡大と森林整備
- ・環境保全活動にアカデミックな関わりをもつことができた
- ・防災緑地の進捗に伴って植樹を実施することができた

助成を受けていた活動の規模を拡大するためには、公的組織とのネットワークの活用と活動の成果が重要と考えられる。

③「縮小した」と回答した団体の具体的な活動の事例は、以下のとおりであった。

- ・新たな体験活動などは行っていないが、助成を受けて制作した啓発ツールの普及による啓発活動を継続している
- ・イベント開催回数の縮小
- ・被災館の再開支援が目的なので、地域をしぼって継続
- ・学校への直接の係わりが停止している
- ・資金が不足しているので計画の一部を実施している

「縮小した」と回答した団体の割合は 15.8%と、昨年の調査結果(21.6%)よりも低下傾向ではあるが、原因を分析してこの割合を減らすことが課題である。

#### 4) 活動の継続実施の規模(人材面)について

活動を継続している 38 団体を対象とした、「活動人数は、どのように変化しましたか」という質問への回答は以下のとおりであった。(表5)

なお、活動人数の変化は、助成を受けて行った活動に直接係わる常勤スタッフ、非常勤スタッフとボランティアスタッフの合計人数で見ることにした。

また、その回答結果について、2)による現在の活動規模に対する志向(拡大または維持)別の内訳を調べた。

表5 活動の継続実施の規模(人材面)

回答項目	対象団体数 38 件			
	件数	構成比	2)志向について	
			うち「拡大」志向	うち「維持」志向
a. 減少した	8	21.1%	3	5
b. 変わらない	20	52.6%	9	11
c. 増加した	10	26.3%	8	2
			20	18

「変わらない」と回答した団体数が 20 件と最も多く、「増加した」と合わせて約 8 割の団体が

助成終了時の人員を維持または増加していることがわかった。

「減少した」8団体のうち7団体が回答した、スタッフの種類別の人数の変化は以下のとおりである。

＜減少した7団体＞ ※（ ）内は、助成終了時の常勤と非常勤スタッフの合計人数

- ・団体A(7) 非常勤スタッフが3名減少
- ・団体B(46) 非常勤スタッフが1名増加、ボランティアスタッフが50名減少、会員が80名減少
- ・団体C(8) 常勤スタッフが1名減少、非常勤スタッフが1名増加、ボランティアスタッフが5名減少
- ・団体D(5) ボランティアスタッフが37名減少、会員が11名増加
- ・団体E(3) 非常勤スタッフが3名減少
- ・団体F(7) 常勤スタッフが1名減少、ボランティアスタッフが1名増加、会員が3名減少
- ・団体G(4) ボランティアスタッフが20名減少

常勤スタッフと非常勤スタッフの合計人数が軒並み少ない(最多は団体Bの46人)中で、非常勤スタッフやボランティアスタッフを含む活動人数が減少したことは、活動そのものへの影響が考えられる。

## 5) 活動の継続実施の規模(資金面)について

### ① 資金面の変化

活動を継続している38団体を対象とした、「資金面ではどのように変化しましたか」という質問への回答は以下のとおりであった。(表6)

また、その回答結果について、2)による現在の活動規模に対する志向(拡大または維持)別の内訳を調べた。

表6 活動の継続実施の規模(資金面)

回答項目	対象団体数 38件			
	件数	構成比	2)志向について	
			うち「拡大」志向	うち「維持」志向
a. 減少した	12	31.6%	6	6
b. 変わらない	17	44.7%	8	9
c. 増加した	9	23.7%	6	3
			20	18

「変わらない」と回答した団体は17件(44.7%)と最も多かった。

「減少した」と回答した団体は 31.6%であり、昨年の調査結果(40.5%)を下回った。

## ② 総収入の増減

活動を継続している 38 団体の資金面の変化を、総収入で見ることとした。ただし、資金面の変化が「減少した」と回答した 12 団体のうち1団体において、資金面の回答が具体的に得られなかった。(表 7)

表7 総収入の増減

内 訳	対象団体 38 件	
	件数	構成比
a. 1000 万円以上の減少	0	0.0%
b. 100 万円以上 1000 万円未満の減少	7	18.4%
c. 100 万円未満の減少	4	10.5%
d. 変わらない	17	44.7%
e. 100 万円未満の増加	2	5.2%
f. 100 万円以上 1000 万円未満の増加	5	13.1%
g. 1000 万円以上の増加	2	5.2%
無回答	1	2.6%

「変わらない」の回答は 17 団体で最も多かった。「100 万円以上 1000 万円未満の減少」と回答した7団体について、減少が大きかった財源の種類は、助成金・補助金が 5 件、寄付金が 2 件であった。

総収入の減少は、助成を受けた活動のための資金不足につながり、活動そのものへ、規模の縮小などの影響が考えられる。

一方、総収入の増加と回答された 9 団体について詳しく調査したところ、以下のような回答が得られた。

- ・助成活動の成果がカンボジア教育・スポーツ省から高く評価され、外務省の【日本 NGO 連携無償資金協力(N 連)】契約を締結している。
- ・若手プロジェクトリーダー研修で学んだ情報発信力が、寄付金及び会費の増加に寄与している。
- ・助成活動の成果によって、支援先からの出張ワークショップの要請や当法人の商品の委託依頼などができている。
- ・事業収入の増加は、助成活動とは別事業によるものではあるが、助成活動で巻き込んだステイクホルダーの拡大による影響もある。
- ・助成活動による普及啓発活動により、団体の認知度が上がったため、道庁の補助金で別事業を展開している。

・助成活動の成果が地域に根付いたことによって、農林水産業みらい基金の資金獲得へとつながっている。

以上の調査の結果から、助成活動の成果や連携の構築によって収入源の増加につながっていることが考えられる。

③ 活動規模の縮小及び拡大と、活動人数及び資金の増減との関係性

2ページ3)①のとおり、活動規模が縮小した6団体及び拡大した17団体について、活動人数及び資金の増減との関係性について考察した。(表8)(表9)

表8 活動規模が縮小した団体 活動人数と資金の増減

	活動規模が縮小した6団体			
活動人数	減少	減少	減少	維持
資金	減少	維持	増加	減少
団体数	1	2	1	2

活動規模が縮小した団体は、活動人数と資金が減少している傾向がある。

表9 活動規模が拡大した団体 活動人数と資金の増減

	活動規模が拡大した17団体						
活動人数	増加	増加	増加	維持	維持	維持	減少
資金	増加	維持	減少	増加	維持	減少	維持
団体数	3	4	3	1	4	1	1

活動規模が拡大した団体は、活動人数と資金が増加または維持している傾向がある。

団体が助成を受けた活動を継続するためには、安定的に人材と資金を確保することが課題である。よって、助成期間中に、人材及び資金面を含めた助成期間後の活動計画を立てることが重要と考えられる。

- ④ さらに、表9をうけて、活動人数減少や活動資金減少にもかかわらず、活動規模が拡大した5団体について、これまでの回答結果の共通点について調査した(各項目については複数回答項目のみ抜粋)。(表10)

表10 活動人数あるいは資金が減少したが活動が拡大した団体について

		活動人数減少で活動拡大	活動資金減少で活動拡大
該当団体		1団体	4団体 (活動人数が増加した団体 3団体)
助成活動の志向		活動の規模を拡大 1団体	活動の規模を拡大
波及効果	組織が成長、地域においてつなぎ役、リーダー的存在になった。	0団体	3団体
	組織が成長、受託事業増加、地域のための業務増加(4団体)	1団体	4団体
	他団体等とのネットワークの構築	1団体	4団体
	波及効果の成果	協働による成果 1団体	活動による成果 2団体 活動・協働による成果 2団体
組織の拡充に必要なこと		人材育成・確保 1団体 資金の安定化 1団体 連携・協力体制の確立 1団体	人材育成・確保 4団体 資金の安定化 4団体 連携・協力体制の確立 2団体
日常的に情報交換	他のNPO、市民団体	40件	約4件(1団体当たりの平均)
	行政	14件	約3件(1団体当たりの平均)
	企業	3件	約2件(1団体当たりの平均)
	保育園、幼稚園、小・中学校、高校	4件	2件(1団体当たりの平均)
	大学	3件	約3件(1団体当たりの平均)
基金に対する要望	会計処理の作業軽減	1団体	0団体
	概算払い	0団体	2団体
	同活動団体の紹介	0団体	1団体
	連携できそうな企業の紹介	0団体	1団体
	有給役職員の人件費	0団体	2団体

活動人数が減少した中でも活動規模が拡大した1団体については、「日常的に情報交換している団体」が比較的多く、他の組織との協働によって活動の規模が拡大したと考えられる。また、活動資金が減少した中でも活動規模が拡大した4団体のうち、2団体について

て詳しく調査したところ、3年間で定着した助成活動が軌道にのったことによって、当時の助成活動の期間と比較して同程度の資金が必要でなくなったとのことであった。

#### 6) 助成終了後の現在の財源について

活動を継続している 38 団体において、助成活動終了後の現在の主な財源は、以下のとおりであった。(表 11)

また、その回答について、2)による現在の活動規模に対する志向(拡大または維持)別の内訳を調べた。

表 11 助成終了後の現在の主な財源について(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 38 件			
	件 数	対象団体数 に対する割合		
			うち「拡大」志向	うち「維持」志向
a. 国の補助金	5	13.2%	5	0
b. 地球環境基金	19	50.0%	12	7
c. 民間財団等の助成金	17	44.7%	10	7
d. 寄付金	21	55.3%	9	12
e. 会費	22	57.9%	13	9
f. 事業収入	22	57.9%	13	9
g. その他	3	7.9%	1	2

また、「その他」と回答した団体から、以下のとおり具体的な回答が得られた。

- ・市役所の補助金 2 件
- ・現地の連携団体が取得した外部資金 1 件

「会費」と「事業収入」と回答した件数が最も多く、次いで、地球環境基金を含めた「助成金」、「寄付金」を主な財源とする団体が多かった。

## 7) 助成活動の波及効果について

活動を継続している 38 団体において、助成活動の波及効果（活動の成果または協働の成果）については、以下のとおりであった。（表 12）

表 12 助成活動の波及効果について（複数回答可）

回 答 項 目	対象団体数 38 件			
	件数	対象団体数 に対する率	うち活動 の成果	うち協働 の成果
a. 組織が成長し、活動地域において NPO の中のつなぎ役になった。もしくは、リーダー的存在になった。	13	34.2%	4(31%)	9(69%)
b. 組織が成長し、受託事業が増えた。もしくは、地域のための業務が増えた。	17	44.7%	8(47%)	9(53%)
c. 助成活動を参考にして、他の団体でも類似の活動を実施するようになった。	13	34.2%	2(15%)	11(85%)
d. 助成活動を参考にして、類似の活動を行う団体が新たに設立された。	8	21.1%	4(50%)	4(50%)
e. 他の団体から問い合わせまたは説明依頼があった。	20	52.6%	13(65%)	7(35%)
f. 他団体等とのネットワークが構築された。	23	60.5%	8(35%)	15(65%)
g. 行政の政策に具体的な提言をし実現させた。	15	39.5%	7(47%)	8(53%)
h. 法令や条例等の制定や改正に貢献した。	6	15.8%	2(33%)	4(67%)
i. 地域の環境保護（保全）システムづくりに貢献した。	17	44.7%	8(47%)	9(53%)
j. 環境保全や保護を目的とした施設づくりに貢献した。	2	5.3%	1(50%)	1(50%)
k. 活動への参加者が増えた。もしくは、パンフレット等配布物の配布数が増えた。	13	34.2%	11(85%)	2(15%)
l. メディアに掲載された。	16	42.1%	14(88%)	2(12%)
m. 表彰を受けた。	4	10.5%	3(75%)	1(25%)
n. その他	5	13.2%	4(80%)	1(20%)
o. 特になし	1	2.6%		

また、「その他」と回答した団体から、以下のとおり具体的な回答が得られた。（複数回答可）

- ・オリジナルグッズが販売され、団体の収入に貢献している。
- ・山形県庁から市民参加型再生可能エネルギー事業の認定を受けた。
- ・助成金で作成した生物多様性の汎用教材の経験を活かし、一般書籍『みぢかな樹木のえほん(ポプラ社)』を出版できた。
- ・活動を発展させて、牡蠣養殖の後継者人材育成事業に取り組んでいる。

① 助成活動の波及効果として回答が多かった項目について

- ・「f. 他団体等のネットワークが構築された。」 ……23 件
  - ・「e. 他の団体から問い合わせまたは説明依頼があった。」 ……20 件
- 前回の調査でも、この 2 つの回答が多かった。

② 「活動の成果」と「協働の成果」について

各回答項目の波及効果が、活動の成果によるものか、あるいは協働の成果によるものか調査したところ、以下のようにつながっている傾向が読み取れた。

《活動の成果によるもの》

- ・他団体からの問い合わせ(e)
- ・参加者の増加(k)
- ・メディアや表彰(l,m)

《協働の成果によるもの》

- ・地域の NPO 中のつなぎ役もしくはリーダー的存在(a)
- ・他の団体でも類似の活動を実施(c)
- ・ネットワークの構築(f)
- ・賛同者の増加による法令や条例の制定(h)

③ メディアへの掲載について

「l. メディアに掲載された。」と回答した 16 団体のうち 11 団体から、以下のとおり具体的な回答が得られた。(複数回答可)

・新聞	8 件
・テレビ放送	4 件
・専門誌	3 件
・ラジオ	1 件

④ 表彰について

「m. 表彰を受けた。」と回答した団体から、以下のとおり具体的な回答が得られた。(複数回答可)

- ・大阪産業館 CB/GSO アワード 2016 準グランプリ
- ・日本政府旭日双光章
- ・日伯外交関係樹立 120 周年記念外務大臣表彰
- ・環境省グッドライフアワード 2015 環境大臣賞優秀賞
- ・平成 29 年度アカデミア賞社会部門
- ・第 4 回安藤忠雄文化財団賞
- ・JAPAN OUTDOOR LEADERS AWARD 特別賞

### Ⅲ 団体の活動全般について

#### 1) 組織の拡充につなげるために、団体として必要なものについて

組織の拡充につなげるために、団体として必要なものについて、46 団体から得られた回答は以下のとおりであった。(表 13)

表 13 組織の拡充につなげるために、団体として必要なものについて(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 46 件	
	件 数	対象団体数 に対する率
a. 活動内容の周知方法の確立や拡大	20	43.5%
b. 人材の育成や確保	37	80.4%
c. 活動の継続実施(実績を積むこと)	21	45.7%
d. 活動資金調達のための組織体制	24	52.2%
e. 地域・企業の連携や協力体制の確立	18	39.1%
f. 活動資金の安定化	31	67.4%
g. 会員増加	18	39.1%
h. 事務局組織の運営・強化	26	56.5%
i. その他	2	4.3%
j. 特になし	1	2.2%

組織の拡充につなげるために団体として必要なものについて、「b. 人材の育成や確保」(37 件、80.4%)と「f. 活動資金の安定化」(31 件、67.4%)を挙げる団体が特に多く、例年どおりの傾向が見られた。

組織の拡充に「人材の育成や確保」と「活動資金の安定化」が重要であるとする団体が多いことがわかる。

## 2) 団体の活動を推進するため、日常的に情報交換をしている団体数について

団体の活動を推進するため、日常的に情報交換をしている団体数について、46 団体から得られた回答は以下のとおりであった。(表 14)

表 14 団体の活動を推進するため、日常的に情報交換をしている団体数について  
(複数回答可)

区 分	合計	中央値	平均値	最大値
a. 他の NPO、市民団体等	443	10	11.7	40
b. 行政	198	3.5	4.9	32
c. 企業	398	5	14.2	200
d. 保育園、幼稚園、小学校、 中学校、高等学校	513	3	16.5	300
e. 大学	88	1	2.8	12
f. その他	46	2	3.2	15

また、「その他」と回答した団体から、以下のとおり具体的な回答が得られた。

- ・研究機関
- ・研究団体
- ・議員
- ・メディア

情報交換している団体数の中央値が最も高いのは、「他の NPO、市民団体等」であるが、並行して行政や企業・学校などと情報交換をしている団体が大半であった。「情報交換」から「連携」へと発展して、活動の質と量を高めている、または高めようとしている団体が多いと考えられる。

### 3) 地球環境基金に対する要望について

地球環境基金に対する要望について、46 団体から得られた回答は以下のとおりであった。

(表 15)

表 15 地球環境基金に対する要望について(複数回答可)

回 答 項 目	対象団体数 46 件	
	件 数	対象団体数 に対する率
a. 事務作業を簡潔にしてほしい。(申請書類、報告書類)	11	23.9%
b. 事務作業を簡潔にしてほしい。(会計書類)	17	37.0%
c. 概算払いを認めてほしい。	14	30.4%
d. 同様の活動をしている他団体を紹介してほしい。	9	19.6%
e. 連携できそうな企業を紹介してほしい。	8	17.4%
f. 有給の役職員の人件費も認めてほしい。	21	45.7%
g. 会計をチェックする人を派遣してほしい。	2	4.3%
h. その他	16	34.8%
i. 特になし	8	17.4%

また、「その他」と回答した団体から以下のとおり具体的な回答が得られた。

- ・若手プロジェクトリーダー研修生の研修と助成活動との兼ね合いによる代理参加等の融通措置
- ・若手プロジェクトリーダー研修における団体からの期待と研修生の意識にギャップがあるため、精神的ストレスになっている。
- ・NPO/NGO/市民活動のことを十分に理解して業務に臨むように徹底してほしい
- ・賃金単価の上限 1000 円を見直してほしい
- ・助成事業費の 1 割を一般管理費として認めてほしい。
- ・為替差損の軽減
- ・SDGs についての情報提供
- ・自己資金の準備といった助成金申請の制約の見直し

#### IV まとめ

- ① 84.2%の団体が、助成を受けた期間と同程度以上の活動規模を維持している。
- ② 活動人数と資金の減少が、活動規模の縮小に大きな影響を与えている。
- ③ 助成活動の波及効果として、「他団体等のネットワークが構築された」と「他の団体から問い合わせまたは説明依頼があった」が例年どおり多い。
- ④ 組織の拡充に「人材の育成や確保」と「活動資金の安定化」が重要と考える団体が多い。
- ⑤ 団体は様々なステークホルダー、特に他の NPO や市民団体と情報交換をして、活動を推進している。
- ⑥ 事務作業の軽減を望む団体が例年どおり多い。

課題として、団体が助成を受けた活動を継続するために、安定的に人材と資金を確保することが挙げられる。この課題に対して、次年度の助成金の応募時に提出してもらう交付要望書に反映することを検討する。